

診療放射線技師養成施設

卒業生の皆様へ

公益社団法人 日本診療放射線技師会

入会のご案内



公益社団法人 日本診療放射線技師会

The Japan Association of Radiological Technologists

<https://www.jart.jp>

JART ホームページ



JART 入会ページ



日本診療放射線技師会 公式LINE登録



目次

- p.01 **会長挨拶**
日本診療放射線技師会の紹介と入会のご案内
●公益社団法人日本診療放射線技師会 会長 上田 克彦
- p.02 **公益社団法人日本診療放射線技師会とは**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長 江藤 芳浩
- p.04 **診療放射線技師の生涯教育と学術大会**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長 児玉 直樹
- p.06 **「日本診療放射線技師会誌『JART』」と「Network Now」の概要**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長 富田 博信
- p.08 **対談企画**
『ラジエーションハウス』誕生について
●公益社団法人日本診療放射線技師会 会長 上田 克彦
●福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科准教授(取材時) 五月女 康作
(現在の所属)茨城県立医療大学, 保健医療学部放射線技術科学科, 教授(博士(医学))
- p.12 **診療放射線技師賠償責任保険について**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 業務執行理事 江端 清和
- p.14 **JART Plus の紹介**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 業務執行理事 江端 清和
- p.16 **STAT 画像報告委員会について**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 STAT 画像報告委員会 委員長 木暮 陽介
- p.17 **検査説明委員会のご紹介**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 理事 検査説明委員会 委員長 小林 聖子
- p.18 **無料(会員)で学べる生涯教育ラダーシステムについて**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 学術担当理事 川守田 龍
- p.20 **放射線被ばく相談員分科会について**
●公益社団法人日本診療放射線技師会 放射線被ばく相談員分科会 分科会会長 五十嵐 博
- p.21 **入会のご案内**
- p.23 **入会手続き**

会長挨拶

日本診療放射線技師会の 紹介と入会のご案内

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 上田 克彦（山口県診療放射線技師会）



このたびは入会のご案内にお目通しいただき、ありがとうございます。

本会は、診療放射線技師の国家資格創設をめざして設立され、運動の実を結び1951年に関連法が制定されました。以来70年余、診療放射線技師は医療に不可欠な専門職へと成長してきました。

今後も、診療放射線技師職の発展と国民医療への貢献は本会の変わらぬ使命です。X線CT、MRI、PETなど医療技術は日進月歩です。こうした進歩に遅れることなく業務の質を確保するため、生涯学習を基盤に人材育成を進めています。ラダー制度に沿ったe-ラーニングを基本にした教育コンテンツにて、新人から管理者まで段階的に学べる機会を提供します。

ぜひご入会のうえ、ともに医療の質向上に取り組み、国民医療に貢献してまいりましょう。

会章（シンボルマーク）について



本会の会章（シンボルマーク）は、日本放射線技師会教育センター（会館）設立を契機に会員からデザインを公募し金賞に選ばれたものを会章としている。

このマークはラジウムを入れた容器に強い磁石を作用させると放出される3種類の放射線が3種類 - α 、 β 、 γ - に分かれることを発見したニュージーランド出身のアーネスト・ラザフォードの放射線実験をイメージし図案化したもので、投稿時のテーマは「垂直磁界内における α 、 β 、 γ 線の偏向飛行」でした。放射線には電荷を持つものや電荷を持たないものなどいろいろな種類があります。電荷を帯びた粒子は磁力線の中を通るとフレミングの法則により進路を曲げられますが、その曲がる方向は帯電した電荷極性の反対方向となります。

α （アルファ）線はプラスの電荷を帯びたヘリウム原子核（陽子2個と中性子2個）がシンボルマーク左側に伸びる花をイメージしたイラストになっています。マイナスの電荷を帯びた β （ベータ）線は α 線の反対側に伸びるツボミをイメージしています。電荷を持たない原子核から出る γ （ガンマ）線は磁力線の中であっても直進する電磁波で、マーク中央を縦に走るラインとして図案化されその周りを月桂樹で囲まれています。

※教育センター（会館）のシンボルマークとして公募することが1978年 第4回全国理事会（昭和53年2月14日）にて提案されました。第36回総会（昭和54年4月9日）において金賞受賞マークを教育センター（会館）のシンボルマークとすることが提案されましたが、質疑の際に会員から教育会館のみではなく本会としての会章とすることが提案され、審議の上で本会の会章として承認されました。デザインを考案された金賞の受賞者は北海道の米田 功 様で他に銀賞1名、入選3名が選出された。

現在本会では日本診療放射線技師会のシンボルマークとして会章を商標（ロゴマーク）登録しています。

<https://www.jart.jp/profile/gaiyou.html>

アーネスト・ラザフォード博士：ノーベル化学賞を受賞（1908年）
原子番号104 ラザホージウム（Rf）はラザフォード博士の名前にちなんでいる。

公益社団法人 日本診療放射線技師会とは

公益社団法人日本診療放射線技師会

副会長 江藤 芳浩（大分県放射線技師会）



はじめに

公益社団法人日本診療放射線技師会（以下、「本会」）とはどのような団体であるか、また本会に入会する意義について私見を交えながらお話をさせて頂きます。

本会は1947年7月13日、まだエックス線技師の国家資格制度が確立していない中で「日本放射線技師会」として創立しました。その後、1951年6月に診療エックス線技師法が公布されたことを受け、「社団法人日本エックス線技師会」と改称し法人格を取得しています。その3年後の1954年5月に第1回診療エックス線技師国家試験が実施されました。1968年5月に診療エックス線技師法の一部を改正する法律（診療放射線技師及び診療エックス線技師法）が公布され、その翌年に「社団法人日本放射線技師会」に改名しています。2008年の公益法人制度改革関連3法の施行後、公益社団法人格の取得を目指して定款改正等の関連整備を進め、2012年4月1日に移行認定を受け「公益社団法人日本診療放射線技師会」と名称変更し現在に至ります。この長い歴史の中で会員が培ってきた放射線技術研究や様々な公益活動の成果は、放射線医療と国民の健康増進に多大な貢献をしてきたといっても過言ではありません。

本会の役割と目的

本会のような職能団体は医療関係以外にも多数存在します。職能団体が法人格を持つことは、より社会的信頼を得ると同時に、責任の所在を明確にすることを意味し、第三者からすれば安心に繋がるととても重要な要素になります。法人の中でも公益社団法人は登記のみで設立可能な法人と違い、法律に則った国の厳しい審査基準をクリアした認定法人で、社会や国民の利益のために事業を行う

ことを趣旨とする社会的信頼が高い団体として位置づけられます。本会は診療放射線技師のみで構成する公益社団法人であり、本会に所属する会員も社会的信頼を担保されることになります。

本会は定款において「国民医療及び放射線診療に関わる予防・診断・治療等の技術の発達を図り、もって公衆衛生の向上及び国民保健の維持発展に寄与することを目的とする」と定めています。つまり本会は、会員の専門技術を向上するための事業を行い、会員がその技術を国民に還元することによって公益社団法人としての役割を果たすということになります。また、この目的を達成するための事業として、①診療放射線学及び診療放射線技術の向上発展に関する事業、②診療放射線学に関する研究と啓発に関する事業、③放射線診療の安全確保に関わる事業、④診療放射線技師の生涯教育に関する事業を行います。主な教育・学術事業としては、ラダーによる生涯教育システムや各種認定資格、認定診療放射線技師制度の運用、日本診療放射線技師学術大会、地域学術大会、各種委員会・分科会が開催する学術・研修イベントの実施、学術論文や臨床業務に役立つ情報、イベント情報を掲載した会誌や広報誌の発行、ホームページ、SNSなどによる最新情報の発信など、会員のための様々な事業を行っています。

診療放射線技師は専門職としての立場を自覚し、生涯教育に取り組んで常に一定水準以上の技能を保ち、エビデンスに基づいて国民に安心・安全な医療を提供するという専門職者としての義務が課せられます。是非、本会の会員となって教育制度や学術イベントに参加して頂きたいと願っています。

また、本会は会員の教育学術事業の他に、対外的な活動を行います。国民により質の高い医療を提供するため、行政に対して働きかけを行う、他の

医療職能団体と連携する、有益な情報を社会に周知するという役割を担います。一方、こうした診療放射線技師の声は専門職者の総意として提起しなければ耳を傾けてもらうことはできず、「行動力」と「組織力（数）」が必要であり、本会がその役割を担っています。関心のある学会や研究会に所属することは個の技能向上において非常に大切なことですが、そこで培った知識や技術を発揮する診療放射線技師の業務環境を守ることが本会の大きな役割であることを理解して頂きたいと思います。

■ これからの診療放射線技師

少子高齢化、人口減少が顕著となる、いわゆる2040年問題は大きな社会問題となっていますが、医療も例外ではなく診療放射線技師業務にも様々な影響を与えることが想定されています。本会はそうした将来を見据えた事業計画「JART Vision2040」（図1）を2023年7月に策定し、その最終的な長期目標を「国民から求められる新たな役割の獲得」として「放射線業務以外の拡大」と「病院以外の業務拡大」の2つの柱を掲げ、国民の利益向上はもとより、診療放射線技師の専門性向上と需要に繋がる業務拡大を推進しています。また、概ね5年を目途に実現を目指す中期目標として、会員組織率70%（会員4万人）、関連団体との連携強化、部門管理者の育成とラダー活用の推進、JART組織体系の強化を進めており、診療放射線技師の社会的なプレゼンスを高める活動を行っています。

医師の過重労働の改善や労働人口の減少を見据えて医師や医療専門職種間のタスク・シフト、タ

スク・シェアが推進されており、各専門職の業務拡大が進んでいます。一方、診療用放射線の人体照射は医行為であり、医師、歯科医師、診療放射線技師以外が行ってはならないことが診療放射線技師法で厳しく規定されていることはご承知のとおりです。これは診療用放射線を扱うには相応の高い専門性が必要であることを意味しています。診療業務の効率化などの観点で容易に他職種が扱うものではないことを診療放射線技師自身がしっかりと認識し、周知していかなければなりません。国民（患者）に安全で質の高い放射線医療を提供していくために、診療放射線技師による放射線安全管理と放射線検査技術をこれからも堅守していく必要があります。

■ おわりに

団体や企業などの組織では「社会人基礎力」が必要であると言われています。「社会人基礎力」とは「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」という社会人としての精神面の能力とされています。「前に踏み出す力」は指示待ち人間の逆で、面倒くさいことや人の嫌がる事を、皆のため、自分の成長のためと思って取り組むこと、「考え抜く力」は現状に満足せず、より良くするための解決方法を考える課題発見力、計画力、創造力を発揮すること、「チームで働く力」は多様な人々と共に、その人たちそれぞれの能力を引き出しながら目標に向かって一緒に進んでいく力のことで、規律を守り、ストレスコントロールが必要になります。競争が激化する企業を支えるのが社会人基礎力の高い人材であるとされています。

診療放射線技師が医療情勢の変化に対応していくためには現状の課題を把握し、積極性と計画力をもって行動する必要があります。本会が個々の診療放射線技師のために何をしてくれるのかを問うのではなく、診療放射線技師が本会のために何ができるかを考えて頂ければ、それ以上心強いものではありません。本会の会員数（組織率）はまだまだ少ない状況です。是非、本会に所属する意義を理解して頂き、一人でも多くの診療放射線技師が本会の一員となって、共に活動して頂けることを願っています。

JART Vision 2040（診療放射線技師職の継続と発展）

長期目標	国民から求められる新たな役割の獲得 ◆放射線業務以外の拡大 ◆病院以外の業務拡大
中期目標	◆組織率70% ◆四病院団体協議会※、養成機関、職域団体等関連団体との連携強化 ◆管理者の育成とラダーの活用 ◆診療放射線技師会の組織強化

※四病院団体協議会：
 （一社）日本病院、（公社）日本精神科病院協会、（一社）日本医療法人協会、（公社）全日本病院協会の
 病院4団体で構成される協議会

図1 JART Vision2040（中長期目標）

診療放射線技師の 生涯教育と学術大会

公益社団法人日本診療放射線技師会

副会長 児玉 直樹（新潟県診療放射線技師会）



日本診療放射線技師会は、国民医療および放射線診療に関わる予防・診断・治療等の技術の発達を図り、もって公衆衛生の向上および国民保健の維持発展に寄与することを目的とした職能団体です。そのため、放射線診療の安全確保に関わる事業と診療放射線技師の生涯教育に関する事業に特に力を入れて取り組んでいます。今回は診療放射線技師の生涯教育に関する事業について紹介いたします。

診療放射線技師は安全かつ良質な医療を国民に提供する重要な役割を担っており、高度医療に即応し国民への利益追求を常に目指さなければなりません。このため、診療放射線技師の生涯教育は継続教育の規準と目標を明確にし、それにより得られる医療人としての資質の向上をもって国民の健康増進とQOLの向上に貢献することを目的としています。2003年度から日本診療放射線技師会では生涯教育システムとして、診療放射線技師養成教育課程にて不足していた医療人として必要な科目を学習することや、診療放射線技師養成教育の高等化に対応する取り組み、そして国民に安全か

つ質の高い医療を提供することなど、診療放射線技師の職業の発展を考えるとともに国民の視点に立って作られた生涯教育システムを構築してきました。日本診療放射線技師会の会員のみならず全ての診療放射線技師は、医療人としての本質を追求し、診療放射線技師の質の向上と自己研鑽に励む必要があります。これによって真の医療を国民に提供し、社会の趨勢に応え、国民から信頼される職業へと発展していくことになります。

この生涯教育システムをさらに発展させ、会員自らが到達目標を把握し日常診療における習熟度レベルを可視化できる、クリニカルラダー方式を取り入れた新しい生涯教育システムを構築し、2022年度から運用を開始しています。日本診療放射線技師会では知識的ラダーを担うものとし、知識レベルと継続教育を全国統一のものさしで評価することにしています。なお、各施設で評価する技能的ラダーと合わせて活用していただくことが必要です。また、新しい生涯教育システムはクリニカルラダーとマネジメントラダーから成り、表1に新しい生涯教育システムにおける各レベルの到

表1 新しい生涯教育システムにおける各レベルの到達目標

クリニカルラダー		マネジメントラダー	
レベル5 (研究・教育)	専門の知識・技術を活かし創造性を発揮し、教育、研究ができる	レベル5 (部長・技師長)	医療経営に参加し社会に貢献できる
レベル4 (認定・専門診療放射線技師)	卓越した知識・技術を活かし専門性が発揮できる JARTがめざす認定・専門診療放射線技師	レベル4 (技師長・副技師長)	部門管理をした上で他部署との連携でチーム医療を実践できる
レベル3 (スペシャリスト)	知識・技術を活かし日常業務の質向上、後進の指導等ができる	レベル3 (主任)	部署・部門の管理ができる
レベル2 (ジェネラリスト)	日々進歩する標準医療を担保できる(科学的根拠に基づく医療の実践)		
レベル1 (新人教育)	日常の放射線診療に必要な基礎知識を身につけ、医療安全を担保できる		

達目標を示します。レベル1は新人教育レベル、レベル2はジェネラリストレベル、レベル3からはスペシャリストレベルの教育を目標とし、レベル4を日本診療放射線技師会が目指す認定・専門診療放射線技師レベルを想定しています。なお、レベル3からはスペシャリストの教育を目標とし、クリニカルラダーにおいては画像診断系と放射線治療系に分かれることになります。レベル1は就職して1～2年目の診療放射線技師が学習するレベル、レベル2は就職5年目以内の診療放射線技師が学習するレベル、レベル3は就職して5～10年目程度の診療放射線技師が学習するレベルで役職が主任となるレベルを想定しています。レベル4は就職10～20年目程度の診療放射線技師が学習するレベルで役職が副技師長や係長となるレベルを想定しています。レベル5は教育・研究職を目指すレベルとし、役職が技師長や医療技術部長となるレベルを想定しています。なお、あくまで目安ですのでこの年数にとらわれることなく積極的に参加していただきたいと思います。また、クリニカルラダーやマネジメントラダーの各レベルについてはシラバスを作成しており、日本診療放射線技師会のホームページに掲載していますので是非ご確認ください。

また、日本診療放射線技師会では、1985年のX線発見90周年を機に全国放射線技師総合学術大会として学術大会がスタートしました。この学術大会は、日常業務に直結した学術研究発表の場として、また医療の原点である「患者さんへの思いやり」を再認識する場として、診療放射線技師の間に定着してきました。現在は日本診療放射線技師学術大会と名称を変更し、毎年開催されています。この学術大会も診療放射線技師の生涯教育に大きくかわる事業になります。2025年度は福井県にて第41回日本診療放射線技師学術大会（JCRT2025）が開催されました。日本診療放射線技師学術大会では国際セッションを設け、アジアの国々からの参加者も年々多くなってきています。国際交流を通じてアジア各国の診療放射線技師免許制度を知る機会や人材育成にもつながる貴重な機会になります。さらに、3年に1度は東アジア学術交流大会（EACRT）、7年に1回はアジア放射線治療シンポジウム（ARTS）を日本におい

て学術大会に合わせて開催していますので、一度参加してみてもはいかがでしょうか。

この学術大会を開催するにあたって学術研究に関する倫理規程を制定しています。診療放射線技術の向上に資する活動として研究と報告を設定し、報告は「研究目的ではない医療の一環とみなされる」ものとして、倫理指針の対象外とすることになっています。報告は研究目的ではない医療の一環とみなされるもので、症例報告、技術報告、実践報告などを対象とし、多くの診療放射線技師にとって日常臨床について発表する機会が増えるものと思います。また、学術研究に関する倫理規程の詳細な内容については学術研究に関する倫理規程ガイダンスを作成して公表しています。倫理規程の目的や適応範囲、診療放射線技術の向上に資する活動における倫理、発表倫理の原則などについて詳細に説明し、診療放射線技師に広く周知することを目指しています。皆様におかれましては日常の臨床での経験や創意工夫について、日本診療放射線技師学術大会にて発表いただきますよう、よろしくお願い致します。



図1 日本診療放射線技師学術大会の開会式



図2 アジア各国の会長との記念撮影

「日本診療放射線技師会誌『JART』」と「Network Now」の概要

公益社団法人日本診療放射線技師会

副会長 富田 博信（埼玉県診療放射線技師会）



はじめに

日本診療放射線技師会では、学術誌として日本診療放射線技師会誌「JART」、ニュース誌として「Network Now」を毎月発行し、全国の会員の皆様にお届けしています。会誌は他にも、地方技師会、診療放射線技師を養成する大学等および、官公庁・国会図書館へ送付しており、広く学術情報ならびに、本会の活動を発信してお届けしています。

会誌「JART」について

会誌「JART」は、会員にとって有益な学術情報をメインに、論文、特集、報告や資料などの内容を毎月100ページ前後でまとめた学術情報誌です。2021年4月からは、オールカラーページとなったことで、臨床画像等もとても見やすく、現場で役に立つ情報満載の冊子です。



会誌「JART」(2025年1月号)

会誌「JART」の誌面構成は、会員からの投稿論文をはじめ、関係団体との対談や各施設への取材を元にした特集ページ、またそれぞれの分野のエキスパートによる各種連載（誌上講座）や、本会が組織する委員会や各分科会の活動報告など、幅広く展開しています。冒頭には今後開催予定の講

習会やセミナーの案内、学会のお知らせや申込方法なども掲載されていますので、興味のあるセミナーなどが目にとまったら、ページ下にあるQRコードからすぐに参加申込みすることが可能です。

なお年間12号のうちの1号は、例年開催される本会主催の学術大会についての抄録集として発刊しています。

また、会誌には理事会や定時総会の会議議事録も掲載されていますので、本会が取り組む事業活動についての進捗状況なども詳しく知ることができます。

2021年度より会誌の電子配信も行っており、PC、スマートフォン、タブレットでの閲覧も可能になっています。これにより、様々なシーンで会誌をご活用頂けると思います。

英語論文誌 (Journal of JART English edition)

年に1号の英語論文誌の発刊を2015年より継続して行っております。また、本誌をISSN (International Standard Serial Number、国際標準逐次刊行物番号) に登録、更には2021年よりJ-stage登録も完了しています。

現在PubMed Central® (PMC) へ申請中であり、採択されれば投稿いただいた英語論文は、「PubMed : パブメド」で検索が可能となり、修士、博士の学位取得を考えている会員の皆様にも大きな貢献ができると思います。本事業は準備に数年がかかりましたが、今後も会員目線に立った事業を展開していきたいと思います。

論文投稿について

日本語、及び英語論文の投稿システム電子化を2020年10月より運用開始いたしました。これに

より論文投稿がインターネットで可能になるため、筆者（会員）様の利便性は大きく向上しております。本システムにより、論文投稿手続きはスムーズで、タイムリーに行うことができます。また、会誌および英語論文誌に掲載される論文はオールカラーになりますので、様々な臨床画像も見やすくわかりやすい仕上がりになります。是非にご入会頂き、研究成果を会誌に投稿することで、自身の学術業績の一つにしていただければと思います。

Network Nowについて

「Network Now」は、本会の事業活動や、医療を取り巻く最新情報を迅速にお伝えするニュース誌で、2017年4月よりデジタル化し、現在はWebで配信されています。会員に限らずどなたでも閲覧可能ですので、ぜひ本会ホームページにアクセスしてご覧ください。

※会誌「JART」と併せて閲覧いただくことで、より詳しく本会の活動内容を知ることができます。

会員の皆様からの投稿をお待ちしています！

会誌「JART」（およびNetwork Now）は、毎号編集委員会において、掲載内容の企画を練っています。これまでに掲載された企画では、国際学会に参加された会員による演題採択までの苦労等様々なコンテンツが掲載されています。これらの記事は、学会や講習会に参加した編集委員による会員同士の繋がりから、ふとした会話が元で生まれた企画です。

連載企画についても同様に、会員同士で企画を持ち寄り、自身のネットワークを通じて新たな企画を生み出しており、読者の中には、知り合いが執筆陣の一人として掲載されていることも珍しくありません。まさに本会の会員のための身近な学術情報誌といえます。

ぜひ技師会に入会して、会誌「JART」と「Network Now」をご購読いただき、また論文の投稿や会誌への寄稿にもチャレンジして、ご自身の知見を深めるツールの1つとして利用していただければと思います。より多くの新入会をお待ちしております。

定期刊行物

<https://www.jart.jp/journal/index.html>



Network Now
(2025年1月号)



地域技師会での活動報告

日本診療放射線技師会 公式LINEアカウントについて

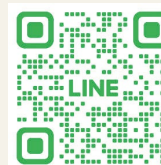
本会では、最新情報を迅速にお届けするため、2025年3月より公式LINEアカウントを開設しております。

関係省庁からの通知、法令改正など重要なお知らせをはじめ学術大会、研修・イベントのご案内など、皆さまに役立つ情報を随時配信しております。また、災害発生時には緊急連絡として速やかに情報を共有いたします。学生さん向けに無料の求人案内の情報共有もしております。

登録は無料で、LINEから簡単にお手続きいただけます。ぜひご登録いただき、会員になることのメリットを実感してください。

登録方法

- 1 スマートフォンでLINEアプリを起動
- 2 「公式アカウント」検索で「日本診療放射線技師会」と入力または右記の二次元コードを読み取り
- 3 「フォロー」ボタンを押して登録完了



公式LINE
二次元コード

今後も、皆さまに本会の活動をより身近に感じていただけるよう、情報発信の充実に努めてまいりますので、**診療放射線技師の皆様は、本会公式LINEへのご登録をお勧めいたします。**

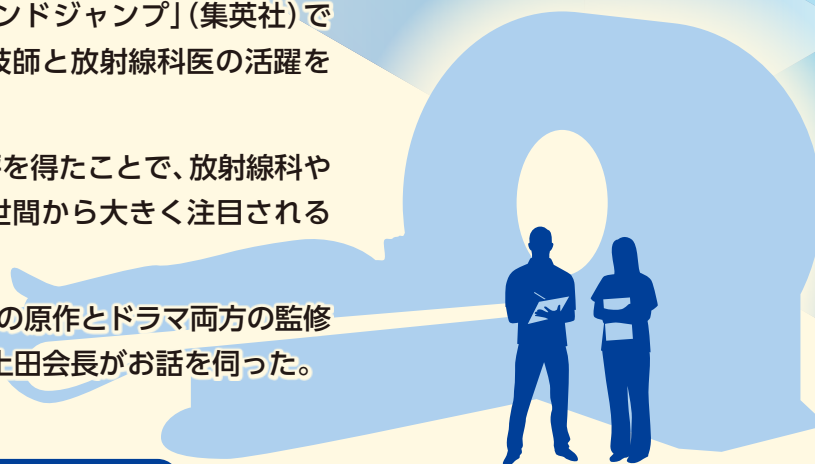
『ラジエーションハウス』 誕生について

PROLOGUE

「ラジエーションハウス」は「グランドジャンプ」(集英社)で2015年から連載中の診療放射線技師と放射線科医の活躍を描いた漫画。

2019年にテレビドラマ化され好評を得たことで、放射線科や診療放射線技師にも光があたり、世間から大きく注目されることとなった。

ドラマ第二期の放送決定を受け、この原作とドラマ両方の監修に携わった五月女康作先生に本会上田会長がお話を伺った。



PROFILE

上田 克彦

公益社団法人
日本診療放射線技師会会長



五月女 康作

福島県立医科大学
保健科学部診療放射線科学科准教授

※本記事の掲載内容は2021年8月対談時点のものです。

現在の所属・役職は茨城県立医療大学 保健医療学部放射線技術科学科 教授です。



●プロフィール

1977年8月4日生まれ 学位:2017年3月31日 博士(医学)

●職歴

2000年4月～2011年2月

財団法人筑波メディカルセンター病院放射線技術科

2011年3月 筑波大学サイバニクス研究センター 研究員

(内閣府FIRST プログラム専任研究員)

2018年1月 東京大学大学院総合文化研究科

進化認知科学研究センター 特任研究員

2018年8月 東京大学大学院総合文化研究科

進化認知科学研究センター 特任助教

2021年4月 福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 准教授

2025年4月 茨城県立医療大学 保健医療学部放射線技術科学科 教授

●その他

・株式会社集英社 グランドジャンプ連載中

漫画「ラジエーションハウス」医療監修

・ドラマ「ラジエーションハウス～放射線科の診断レポート～」

(フジテレビ) 脚本監修兼スーパーバイザー

上田 私は2020年6月に会長に就任し、現在は大学で教鞭を執る身でもあります。以前には診療放射線技師として長く勤務しておりました。その中でドラマ『ラジエーションハウス』は、われわれの実体験を大変分かりやすく表現していただいているなと感じながら拝見していました。今回はこの対談ができることを大変うれしく思っています。

それでは、早速ですが『ラジエーションハウス』の誕生についてのエピソードなどを、五月女先生から少しお聞かせ願えますでしょうか。

五月女 『ラジエーションハウス』の誕生までをお話しします。私は北海道大学の医療技術短期大学部を出て、2000年に地元の筑波メディカルセンターという所で、診療放射線技師として社会人の一歩を踏み出しました。しかし、正直、診療放射線技師にどうしてもなりたくなかったというよりは、どちらかというといろいろな紆余曲折があって診療放射線技師に流れ着いたというような感じでしたので、診療放射線技師の仕事に最初からそまでのめり込んでいたわけではありませんでした。2年目、3年目ぐらいは、この仕事の面白いところは



知識と技術に裏付けられた

気付きと機転が

目の前の患者の人生を変える

何なのだろうというのを、ずっと日々探し続けているような感じで、違う人生を歩むという選択も頭の中にいつもあるような状態で過ごしていました。

そうしているうちに日々患者さんと接し、撮影をしていて、「自分がこの撮影をしなかったらこの病気が見つからなかった」「このようなことをやってみたら初めて病気が見つかって診断が変わった」「患者さんが部屋に入ってきたときに何かいつもと違う違和感を覚え、画像を見たらちょっとこれは追加撮影をしようかとなり、それで新しい病気が見つかった」「今まで見えていなかったものを自分で写し出すことができた」など、きっとみなさんもそのような経験があると思いますが、私も少しずつそういう経験をできるようになってきました。

そういった仕事の面白さがだんだん見えてくる時期がちょうど2年目、3年目ぐらいで、その面白みを言葉に落とし込みたいという気持ちが自分の中に出てきました。私は言葉に起こしたり図にしてみたりしないと、頭の中でどうしてもうまく整理ができないタイプでして、自分の経験を言葉に置き換えてみることにしました。そうして生まれたのが「知識と技術に裏付けられた気付きと機転が目の前の患者の人生を変える」という言葉です。その言葉を読んでもみると、なかなか面白い職業だ

なと思えてきたのです。

そんな時、病院の近くでアルバイトをしてる高校の同級生に久しぶりに会いに行きました。彼は某国立大学を出たにもかかわらず、バーテンダーの仕事をしてながら音楽活動をして「俺は音楽で飯を食っていくんだ」と夢を追いかけていました。

その彼に「何の仕事をしているの」と聞かれたときに、診療放射線技師をやっていると答えると、「あの写真パシャパシャ撮るやつね」という感じで、彼に悪意はなかったのですが、私にとってはすごく鼻につくような表現をされまして、しかも、ちょうど診療放射線技師としての面白みのようなものに気付き始めた頃にそれを言われたものですから、帰り道にそれが悔しくて、絶対にいつかあんな言われ方をされないようにしてやると思っていました。

毎日そんなことを思い続けて生きていたわけではないのですが、ただ、ふとしたときにあの言葉がいつも頭の片隅に出てきました。診療放射線技師の現場で働いているみんながみんなそうかは分かりませんが、現場で働いている診療放射線技師のやりがいというものと、世間の診療放射線技師のイメージというものが、あまりにも乖離かいりしているということに少しずつ気付き始めて、それを何とかしたいと思うようになってきました。

一方で、イメージが悪くて何が悪いのだと言われたり、そんなことを気にしないで、自分でいい仕事だと思っていればいいではないかと言われたこともありました。しかし、私にはそう思えませんでした。やはり医療職は少なからず命に携わる職業なので、職業のイメージが悪いということは、そこに集まってくる学生の母数が減ってしまうことになります。母数が減ってしまえば当然ながらレベルが下がってしまうことになり、最終的には患者さんの不利益に直結していくのだと思い、ある程度イメージは担保しておかなければいけないのではないかと考えていました。

それでも、漫画を作ろうとすぐにたどり着けたわけではありません。ただ、何とかしたいという気持ちが少しずつ強くなっていきました。その後、私は社会人としていろいろな経験を積んでいく中で、診療放射線技師として知識と技術を蓄えていきました。レベルを上げていけばいくほど、きつとあの乖離は小さくなっていくと考え、いろいろな活動をしていましたが、一向に小さくなる気配や実感がなく、これはちょっと違うのではないかと思い始めました。

いろいろな言葉や本・経験を通じて知識と技術を縦に積んでいけば、いつかあの乖離を無くすことができると思っていたのですが、そうではなくて、それを世間の人たちに向けて横に渡す作業をしないと、いつまでたっても診療放射線技師へのイメージの乖離は減らないのだと気付かされました。

縦に積んでいったものを、世間一般の人たちに向けて横に渡す方法は何なんだろうと考えたときに、職業のイメージをつくっているものは、少なからずメディアが発信するドラマや漫画などの影響が大きいと思いました。そのため、そのような

ものを作らなければいけないのだと思い始めたのが『ラジエーションハウス』の発端でした。

上田 今のお話を聞いていて、私の若いときにも少し似ていると感じました。私の若い頃は、診療放射線技師の仕事そのものが全く知られていない時代でありました。そのような中、私自身はそれを知ってもらうすべを、五月女先生のように具体的な活動に移すことを思い付きませんでした。

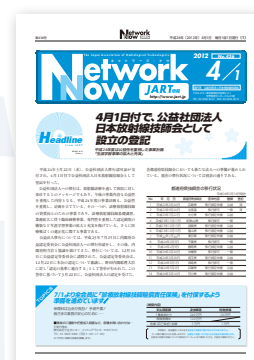
診療放射線技師という仕事が世の中に認知されていない状況が長く続いてきたということ、会長になった今改めて感じ、その間のわれわれ診療放射線技師会の活動も十分でなかったことを反省しないといけないと感じています。そして今はその役割を五月女先生が、そして『ラジエーションハウス』が担ってくれていることはとても嬉しいことだと思います。

これからもお互いの立場で頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。



沿革

- 昭和22年** ● 日本放射線技師会設立
- 昭和26年** ● 社団法人認可
- 昭和44年** ● 第4回 ISRRT 世界大会開催（東京パレスホテル）
- 昭和53年** ● ISRRT（世界放射線技師会）へ正式加盟
- 昭和54年** ● 東京都中央区に教育会館竣工
- 昭和59年** ● IAEA トレーニングコース開設
- 昭和60年** ● WHO より本会教育館へWHO 国際放射線技師研修センターの指定
- 昭和63年** ● 第7回 ACRT（アジア地域放射線技師会議）開催
- 平成元年** ● 三重県鈴鹿市に教育センター竣工（現WHO 国際放射線技師研修センター）
- 平成7年** ● エックス線発見100周年記念式典挙行（秋篠宮妃殿下ご臨席）
- 平成9年** ● 創立50周年記念式典挙行
- 平成10年** ● 第11回 ISRRT 世界大会開催（幕張メッセ）
- 平成13年** ● 放射線技師賠償責任団体保険制度を開始
- 平成15年** ● 台湾・韓国との間で学術交流に関する協定締結
- 平成17年** ● 第15回 ACRT（アジア地域放射線技師会議）開催
- 平成19年** ● 創立60周年記念式典挙行
- 平成23年** ● 東日本大震災に伴い福島県へ放射線サーベイヤーを派遣
- 平成24年** ● 公益社団法人認可
創立65周年ならびに公益社団法人移行記念式典挙行
- 平成27年** ● エックス線発見120周年記念式典挙行（秋篠宮妃殿下ご臨席）
● 業務拡大に伴う統一講習会を開始
- 平成29年** ● 創立70周年記念式典挙行
- 令和3年** ● 医師の働き方改革に伴う業務拡大による告示研修を開始
- 令和4年** ● 創立75周年記念式典挙行（経団連会館）
- 令和5年** ● 第31回 日本医学会総会博覧会へ出展（東京国際フォーラム）
- 令和6年** ● 第1 回日本放射線医療技術学術大会（沖縄コンベンションセンター）開催
- 令和7年** ● 原子力災害対策指針に基づく 原子力災害医療協力機関に指定される
● ワクチン筋注行為に関する講習会の開始
● 2025国際医用画像総合展（ITEM）へ初出展



診療放射線技師 賠償責任保険について

公益社団法人日本診療放射線技師会

業務執行理事 江端 清和（福井県診療放射線技師会）



全員加入 診療放射線技師 賠償責任保険があります

2012年7月1日より、会員の皆さまが安心して業務を行える環境づくりの一環として、本会の全会員に、本会が保険料を負担して「診療放射線技師賠償責任保険」（全員加入部分）を契約し、さらにこの上乗せ補償として、任意に加入できる「診療放射線技師賠償責任保険」（任意加入部分）を準備いたしました。（2025年12月時点では5,992人の会員が任意保険にも加入されています）

診療放射線技師賠償責任保険とは

診療放射線技師業務の遂行に起因して、他人の生命・身体を害したり、財物を損壊したり、不当行為により人格権を侵害したことについて、被保険者が法律上負担しなければならない損害賠償責任を補償する保険です。

※1) 診療放射線技師業務の範囲について

診療放射線技師法に規定する診療放射線技師としての業務およびこれに付随する業務であって、日本国内において遂行されるものをいいます。

ここでいう診療放射線技師業務には2021年の業務拡大に係る改正診療放射線技師法および新たな診療放射線技師法施行規則（省令）に定める業務を含んでいます。

賠償責任保険の必要性

医療過誤においては、第一義的に医療機関が法人として責任を取ることになりますが、昨今の医療訴訟では、医療機関である法人の賠償責任と共に、医療過誤に関わった医療従事者個人の賠償責任が問われる傾向にあります。

また、チーム医療による共同不法行為責任として、医師並びに医師以外の医療従事者にも賠償責任が及ぶケースが増えてきています。

診療放射線技師法改正により、診療放射線技師の業務範囲は拡大しましたが、これは同時に責任の範囲も拡大したことを意味し、賠償事故への備えが益々重要になります。

任意加入保険も追加できます

全員加入保険に加えて更に補償額を上乗せする任意加入保険にはAプラン、Bプランがあります。Aプランでは1億円／1事故、Bプランでは5,000万円／1事故を上乗せします。

業務中の対物事故補償でも任意加入のAプランでは30万円／1事故、Bプランでは20万円／1事故を上乗せします。どちらの保険も個別に加入するより安価な掛金にて加入できます。

診療放射線技師賠償責任保険制度の特長

- 1 公益社団法人日本診療放射線技師会の会員全員を対象とする保険制度です。
- 2 全員加入保険は、公益社団法人日本診療放射線技師会が保険料を負担しますので、会員の皆様の**負担はありません。**
- 3 公益社団法人日本診療放射線技師会の会員または業務の補助者による診療放射線技師業務の遂行に起因する事故等を補償対象とします。
- 4 厚労省医政局長通知（医政発709第7号）の診療放射線技師法施行規則等の一部を改正する省令により**拡大した新たな業務に関しても、漏れなく補償対象となります。**

全員加入保険（保険料は会負担で、全会員に自動付帯）

補償の種類	補償内容
① 業務中の対人事故補償	1事故350万円・期間中1,050万円限度（免責金額なし）
② 業務中の対物事故補償	1事故・期間中30万円限度（免責金額なし）

任意加入保険（保険料は会員負担で任意に加入）

① 業務中の賠償責任保険（全員加入保険の上乗せ補償）

支払限度額

補償の種類	Aプラン	Bプラン
業務中の対人事故補償 （上表①の上乗せの補償）	1事故1億円 保険期間中3億円 <small>（全員加入部分（1事故350万円・保険期間中1,050万円（免責金額なし））の上乗せ補償となります。）</small>	1事故5千万円 保険期間中1.5億円 <small>（全員加入部分（1事故350万円・保険期間中1,050万円（免責金額なし））の上乗せ補償となります。）</small>
業務中の対物事故補償 （上表②の上乗せの補償）	1事故・保険期間中30万円 <small>（全員加入部分（1事故・保険期間中30万円（免責金額なし））の上乗せ補償となります。）</small>	1事故・保険期間中20万円 <small>（全員加入部分（1事故・保険期間中30万円（免責金額なし））の上乗せ補償となります。）</small>
人格権侵害	1名・1事故・保険期間中500万円 （免責金額なし）	1名・1事故100万円 保険期間中500万円（免責金額なし）
初期対応費用	1事故・保険期間中300万円 （免責金額なし） <small>（うち、身体障害見舞金は1事故・被害者1名あたり5万円限度）</small>	1事故・保険期間中300万円 （免責金額なし） <small>（うち、身体障害見舞金は1事故・被害者1名あたり3万円限度）</small>
年間保険料	2,100円	1,600円

「任意加入部分」の「対人補償」「対物補償」は、全会員に自動付保されている「全員加入部分」の上乗せ補償（補償限度額を上げる補償）です。万一事故が発生した場合は、「全員加入部分」が優先的に使用され、「全員加入部分」の支払限度額を超えた部分に対して、「任意加入部分」でお支払いいたします。

公益社団法人日本診療放射線技師会の正会員は、弁護士等の専門家へ無料で相談することができます。不安なことは抱え込まずに、メールや電話でご相談ください。

（ご相談は、診療放射線技師賠償責任保険取扱代理店（株）メディックプランニングオフィスが窓口としてお受けし、内容に適した専門家からの回答を得て、会員にご返答いたします。）

患者さんが補聴器を外していないことに気付かずMRIを実施し、補聴器を破損してしまっ

支払金額 **46,000円**
（再購入費用）

救急部での業務中、FPDパネルを落下させてしまい破損した

想定支払金額 **300,000円**
（修理費用）

静脈注射の抜針後、止血不良によって患者さんの洋服が血液で汚れた。

支払金額 **5,000円**
（クリーニング代）

CT撮影時、患者さんを車いすからベッドに移乗させる際に支えきれず転ばせてしまった。

支払金額 **25,000円**
（治療費用）

※上記お支払い例は引受保険会社による想定支払い事例を列記したものです。必ず支払うというものではありませんが代表的な想定されている事例を挙げさせていただいております。詳細は支払保険会社にご相談ください。

※支払保険会社連絡先は下記に掲載されております。
<https://www.jart.jp/process/insurance.html>

フリーダイヤルと e-mail で対応



JART Plus の紹介

〈会員限定無料コンテンツ〉

公益社団法人日本診療放射線技師会

業務執行理事 江端 清和（福井県診療放射線技師会）



はじめに

2024年6月13日より日本診療放射線技師会の会員限定コンテンツとしてJART Plus が開始されました。このコンテンツは全国どこにお住いの会員であっても会員であることのメリットを感じていただけるようにとの思いで始めました。これまで入会を迷っている方からよく言われた「会員になるとどんなメリットがあるんですか」との問いに答えるコンテンツです。**2025年度以降は技師籍登録初年度の方の入会に限って1年目にお支払いいただいていた入会金と年会費は無料**となりました。是非、技師籍登録初年度のうちに会員登録いただき、会員としてのメリットを感じてください。気に入っていただければ継続して会員となっただき、今後の日本診療放射線技師会と診療放射線技師職を支えていただけると更に嬉しく思います。

JART Plus コンテンツについて

会員のための無料コンテンツ JART Plus は日本診療放射線技師会の会員となった方が会員情報システム（JARTIS）に入ると、すぐ目につくように情報システムトップ画面上部に配置されています。2025年11月現在で6コンテンツがラインナップされていますが、今後も増やしていく予定です。コンテンツによってはボタンのクリック後、別サイトにジャンプし、さらに個別に登録が必要なものもありますが登録の手間をかけてでも十分メリットを感じていただけるものになっていると自信を持ってお勧めします。その名の示す通り「会員無料コンテンツ」ですので会員は無料です。コンテンツは陳腐化しないように常に最新情報のアップを心がけており、皆様の期待に応えられる



ものと確信しています。

JART自慢の会員無料コンテンツ「JART Plus」を順に紹介させていただきます。

JART 会誌

日本診療放射線技師会雑誌・JART 会誌は2021年4月より電子ブック化されwebにて閲覧が可能です。この電子ブックシステムはページめくりのイメージにてページを送ることができ、文言検索や印刷もできます。

最新号の会誌も発行と同時に閲覧できるようになっています。スマホでも、パソコンでも。インターネットに繋がっていれば電車の中でもリビングでも。職場の休憩時間にもでも会誌から最旬情報をゲットしてください。

JART archive

日本診療放射線技師会は昭和22年に日本放射線技師会として設立されましたが、当時の創刊号からJART会誌コンテンツまで発行されていた印刷物の電子化が可能であったものをすべてPDFデータ



として取り込んであります。

STAT 画像所見コンテンツ

医政発0930第16号（令和3年9月30日）の「現行制度の下で実施可能な範囲におけるタスク・シフト/シェアの推進について」通知文の中で「現行制度の下で医師から他の医療関係職種へタスク・シフト/シェアが可能な業務の具体例」として診療放射線技師には「撮影部位の確認・検査オーダーの代行入力等」の項目の中に法改正を必要としない診療放射線技師が行うべき業務として「診療放射線技師が実施した検査画像に異常所見が認められた場合に、診療放射線技師が、その客観的な情報について医師に報告する（一部抜粋）」との記載があります。本冊子にもSTAT画像報告委員会の紹介ページがありますが、日本医学放射線学会(JRS)、日本放射線科専門医会・医会(JCR)にも監修いただき緊急異常所見としたまず最優先すべき12症例について詳細な解説を含めた一般撮影画像、CT画像、MRI画像がDICOM画像として画像をスクロールしながら勉強することができます。

JIRA seminar

日本の画像診断機器産業の姿をより深く理解して頂くべく、画像医療システム産業界の現状について大変多くのコンテンツが含まれています。

医療に関わる産業には品質、有効性、安全性には厳しい法規制があり、開発から上市までのプロセスには越えなければいけない多くのハードルがあります。こういった産業としての基本的な事柄



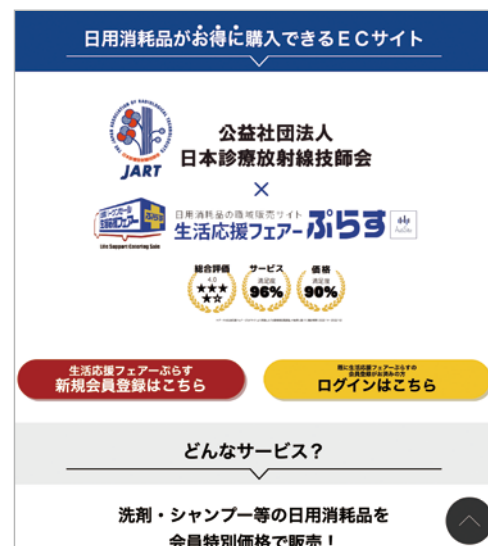
としての「医療機器に関する基礎知識」から歴史、保守、安全など丁寧に説明された動画を閲覧することができます。また医療機器に関する規制や規格、診療報酬制度、サイバーセキュリティ、医療情報、薬機法（医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律）および関連省令、細則、規則だけでなくDICOM規格に関する詳細についても多くの資料とともに解説されています。

常に最新版となるよう毎年コンテンツ全体が更新されています。大変充実しており、これから現場で活躍される若い方々にはぜひとも視聴していただきたいです。

生活応援フェア + (ぶらす)

学習コンテンツが並んでいるJART Plus の中でやや異彩を放つ日用品の激安購入コンテンツです。街なかにあります薬局、量販店などには劣らない安価販売ショップとなっています。ただ単に安いだけでなく、4,000円以上の購入をされますと自宅まで無料で配送してくれるサービス付きです。

会員サイトからお買い物もお楽しみください。



JART Plus の今後

スタートは4コンテンツ。その後2コンテンツが追加となり現在6コンテンツで公開しています。今後もメリットを感じられると思えるコンテンツがあればどんどん追加していきます。コンテンツの充実、拡充については会員の皆様のご意見も聞きながら今後も進めます。

今後の JART Plus にどうぞご期待ください。

STAT 画像報告委員会について

公益社団法人日本診療放射線技師会

STAT 画像所見報告委員会 委員長 **木暮 陽介**（東京都診療放射線技師会）

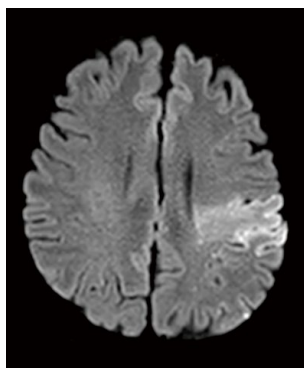


STAT 画像とは

STATの語源はラテン語のstatim（遅らせることなく、すぐに、直ちに）が由来とされており、病院内において非常事態が発生したことを知らせるための全館放送のことをstat callと言います。そして、STAT画像の定義は「生命予後にかかわる緊急性の高い疾患の所見がある画像」となります。日本診療放射線技師会と日本医学放射線学会は診療放射線技師が報告すべきSTAT画像の概要について検討を重ね、ガイドライン（12所見）をだしました。



頭部CT画像
(くも膜下出血)



頭部MRI (DWI)
(脳梗塞)



胸部XP画像
(緊張性気胸)

STAT 画像所見報告学習システム

本会に入会しますと、JART会員無料コンテンツの一つであるSTAT画像所見学習システムにて、“いつでもどこでもスマホでも”学習することができます。当学習システムは放射線科専門医師監修のもと、XP、CT、MRIのSTAT画像所見（頭頸部領域、胸部領域、腹部領域、大血管領域）を参照できる他、依頼内容や緊急度、STAT画像所見報告のポイント、撮影テクニック等について学習することができます。

STAT 画像所見報告Webセミナー

当委員会では「STAT画像所見報告学習システム」とは別に、年に数回「STAT画像所見報告Webセミナー」も開催しています。当Webセミナーでは各モダリティ・領域のスペシャリストがガイドラインで掲げている12所見について、症例の難易度に合わせ詳細に解説しています。会員であれば無料で聴講することができます。

今後の展望

当委員会では、STAT画像の所見報告の遅延により、患者さんが早期治療を受ける機会を逸し死亡する事態を避けるため、画像検査に直接携わる診療放射線技師が速やかに報告できる体制を構築したいと考えています。そのためにも、診療放射線技師全体にSTAT画像所見報告を行える雰囲気を作り、STAT画像所見報告ガイドラインで示した異常所見のアップデートを図りながら学習環境も作って行きたいと思います。

検査説明委員会のご紹介

公益社団法人日本診療放射線技師会 理事

検査説明委員会 委員長 **小林 聖子**（北海道放射線技師会）



診療放射線技師による「検査説明」は、平成22（2010）年の厚生労働省医政局長通知で示された「チーム医療の推進」を契機に、業務としての位置づけが明確になりました。通知では、技師が放射線検査に関する説明・相談を担うことが現行法令上でもできると明記されました。これを受け、日本診療放射線技師会は平成23（2011）年に委員会を設置し、現在は「検査説明委員会」として活動を続けています。

従来も臨床の現場では検査説明の行為は行われていましたが、会の事業として積極的な体制づくりは十分ではありませんでした。そこで本委員会では、全国で統一的高品質の説明を実現するため、FAQ（想定問答集）やモダリティ別説明リーフレット、検査ガイドラインを整備しました。さらに、2023年にはCT検査編、2024年にはMRI・X線・マンモグラフィ編の動画を公開し、英語・簡体語・繁体語・韓国語への多言語化も行いました。これにより、医療アクセスの公平性が向上しました。

こうした取り組みの核心にあるのがPX（Patient eXperience：患者体験）です。PXは単なる満足度ではなく、患者が検査前後に感じる不安の軽減、理

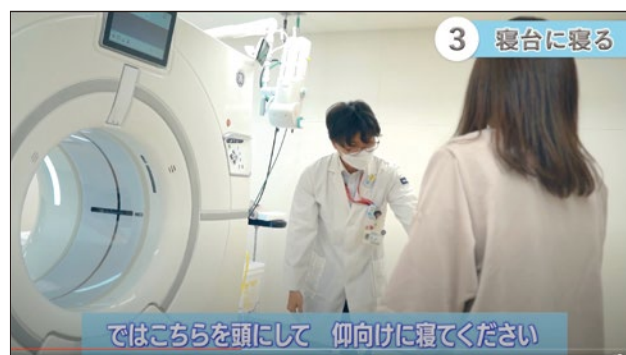
解の深まり、安心感を重視した患者中心性の質指標です。検査説明によって患者から能動的な協力を得られやすくなるため、検査の質向上はもちろんのこと、効率化・最適化・医療安全・訴訟や深刻な被ばく相談をうけるリスクの低減に繋がります。

大変重要なのは、安全と安心は異なる概念であることです。安全は医療者の責務ですが、安心は患者との対話でしか生まれません。検査説明は、その安心を医療の標準機能に組み込むための実践です。

学術大会や地域シンポジウムでは、最新トピックスや課題を共有し、若い世代の意見も取り入れながら検査説明への取り組みを検討しています。患者にとって、説明が充実することは「受け身」から「納得のある協働」への転換を意味し、医療の透明性と信頼性を高めます。検査説明委員会は今後も、診療放射線技師が正確な情報と接遇を伴うコミュニケーションを実践できるよう、ツールと教育を拡充し続けます。

検査説明は、医療の安全性・効率性・公平性を同時に高める最短ルートです。

AIにとって代わることが出来ない人と人との関わりで、より良い医療体験を日本全国へ広げましょう。



<検査説明動画_CT編の場面>

知って安心！放射線検査ガイド
—検査説明動画のご案内— URL
<https://www.jart.jp/general/explainervideo.html>



検査説明動画チラシ



無料(会員)で学べる 生涯教育ラダーシステムについて

公益社団法人日本診療放射線技師会

学術担当理事 川守田 龍 (大阪府診療放射線技師会)



ラダーシステムとは

ラダーとは、「ハシゴ」という意味でもあり、徐々に学習を重ねてステップアップ（レベルを上げていく）という意味があります。この仕組みを利用して、段階的にレベルアップしご自身のキャリアアップに繋がっていただくことが可能です。JARTが提供するラダーコンテンツにはクリニカルラダーとマネジメントラダーがあります。学習コンテンツは各モダリティのエキスパートが作成しています。

【生涯教育の概要】ラダーシステムの概要図と到達目標

クリニカルラダー	専門性 (RT) キャリア	マネジメントラダー	管理者としてキャリア
レベル5 (研究・教育)	専門の知識・技術を活かし、創造性を発揮して、 <u>教育、研究ができる (人材育成)</u>	レベル5 (副)部長	医療経営に参画し、社会に貢献できる (立場になる)
レベル4 (専門)	卓越した知識・技術を活かし専門性が発揮できる。 <u>JARTが認める専門診療放射線技師</u>	レベル4 (副)技師長・課長	部門管理をした上で他部署との連携でチーム医療を実践できる
レベル3 (認定)	知識・技術を活かし日常業務の質向上、後進の <u>指導等ができる</u>	レベル3 (係長・主任)	部署・部門の管理ができる
レベル2 (ジェネラリスト)	<div style="text-align: center;"> <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; text-align: center;"> <p>科学的根拠に基づく医療の実践を行い、 日々進歩する標準医療を担保できる</p> <p>ジェネラリストとして学習した者</p> </div> </div>		
レベル1 (新人教育)	日常の放射線診療に必要な基礎知識を身につけ、医療安全を担保できるように学ぶ		
レベル0	1年目		

【生涯教育の種類と学習方法】eラーニングまたはwebにて学習可能（確認質問あり）です。

- ▶ 会員、非会員問わず受講可能
- ▶ 会員は無料です。 (非会員は有料 (1科目 10,000円))

【クリニカルラダーレベル1】

医療者としての基礎が理解できることを目標とし、下記のすべての科目を受講すること。免許取得（就職）後1～2年目が対象。学習科目は、①感染対策 ②エチケット・マナー ③医療コミュニケーション ④被ばく低減 ⑤医療安全学 ⑥救急医療学 ⑦看護学 ⑧医療社会倫理学 ⑨自己教育・研究支援セミナー ⑩研究倫理指針。

【クリニカルラダーレベル2】

ジェネラリストを目指し、科学的根拠に基づく標準的医療の提供ができることを目標とする。**診療放射線技師経験5年以上の経験を必須要件とし、下記のすべての科目を受講修了すること。**

- ①エックス線撮影 ②CT検査 ③消化管撮影 ④乳房撮影 ⑤血管造影(IVR) ⑥MRI ⑦核医学検査
⑧放射線治療 ⑨超音波 ⑩眼底カメラ ⑪骨塩定量 ⑫予防医療

【クリニカルラダーレベル3】 画像診断系と放射線治療系に分かれる（両方取得も可能）

スペシャリストとして知識・技術を活かし日常業務の質向上、後進の指導等ができることを目標とする。JARTの認定資格のうち2つ以上取得し、下記の表について学習を修了すること。

クリニカルラダーレベル3 受講科目	
画像診断系（下記から2つ以上選択受講）	放射線治療系（下記すべて受講）
①エックス線撮影 ②CT検査 ③消化管撮影 ④乳房撮影 ⑤血管造影(IVR) ⑥MRI検査 ⑦核医学検査 ⑧超音波検査 ⑨予防医療 ⑩検査説明	放射線治療概論、放射線治療物理学、吸収線量評価、放射線治療計画、放射線照射技術、放射線治療の品質管理・品質保証、患者ケアとチーム医療

【クリニカルラダーレベル4】 複数取得も可能

卓越した知識・技術を活かし専門資格を有するスペシャリストです。その専門資格は、**核医学専門技師 X線CT専門技師、磁気共鳴(MR)専門技術者、救急撮影認定技師、血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師、放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士**です。専門資格がない「乳房撮影」「超音波検査」「エックス線撮影」は、レベル4に該当するe-ラーニングの受講完了および確認テストをクリアすること。

【クリニカルラダーレベル5】

人材育成の重要性という観点から、専門の知識、技術を活かして創造性を発揮し、教育および研究ができることを到達目標とする。

クリニカルラダーレベル5の要件は、人材育成に必要なe-ラーニングである下記1, 2を受講すること。

1.指導者として知っておくべきハラスメント防止講習会

2.臨床研究に関する倫理講習会)を100%受講し

さらに、以下①～③のいずれかを満たした場合にレベル認定されます。

- ① 放射線技術科学系、医学系、保健学系、*その他関連する領域に関する査読のある和文雑誌への筆頭著者としての原著論文2編以上。
② 放射線技術科学系、医学系、保健学系、*その他関連する領域に関する査読のある英文雑誌への筆頭著者としての原著論文が1編以上。
③ 放射線技術科学系、医学系、保健学系、*その他関連する領域の博士の学位を取得。

なお、レベル5は、画像診断系、放射線治療系の区別はありません。

*その他関連する領域:医学・医療に関連する領域（放射線管理学、医療情報学、医療安全学、公衆衛生学、医療経営学等、理工学系、その他など）

本会のラダーシステムの紹介をしました、詳細は、会誌またはホームページをご参照ください。

放射線被ばく相談員分科会について

公益社団法人日本診療放射線技師会

放射線被ばく相談員分科会

分科会会長 **五十嵐 博**（群馬県診療放射線技師会）



患者様の心に寄り添う 診療放射線技師に

2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故（以下、原発事故）が発生したことから、国民が緊急被ばくおよび医療被ばくに対して不安や疑問を持つ状況となりました。日本診療放射線技師会では、同年3月16日から被ばく相談窓口を開設して相談を実施することとなりました（現在も「放射線被ばく個別相談センター」として継続中です）。各都道府県（診療）放射線技師会においても被ばく相談員を配置し、身近な相談窓口として運営をしてきました。

原発事故以前から、私たち診療放射線技師は医療現場において、医療被ばくへの対応を行ってきました。しかし、原発事故による環境汚染に関連した被ばく相談が増加することとなったのです。そのため、医療のみならず広く放射線被ばく全般の相談に対応できる人材として、2014年から認定資格として「放射線被ばく相談員」を育成することとなりました。

なお、放射線被ばく相談員を取得するためには、日本診療放射線技師会が実施する講習会を受講し、認定試験に合格する必要があります。講習会の内容は以下のとおりです。受講に際しては、事前に放射線管理士資格を取得していることが条件となります。

- ① 放射線被ばく相談員育成制度の意義
- ② 放射線被ばく相談員の倫理
- ③ 災害時の被ばく相談
- ④ 原発事故による避難生活とメンタルヘルス
- ⑤ 医療被ばく相談
- ⑥ 被ばく相談における傾聴の重要性

- ⑦ 内部被ばくと福島の実況
- ⑧ リスク・コミュニケーション
- ⑨ 放射線被ばくの測定法
- ⑩ 傾聴訓練

講習内容からわかるように、「メンタルヘルス」、「傾聴の重要性」、「リスク・コミュニケーション」、「傾聴訓練」といった日常の業務では聞きなれない用語があります。「放射線被ばく相談」を行う上では、相談者様がどうして不安を感じているのか、何に対して不安なのかなどを相談員とともに解決していくことが重要となります。そのためには、座学に加えて「傾聴訓練」といった演習を通じてさらなる知識と技術を修得していく必要があります。

また、フォローアップ講習会や日本診療放射線技師学術大会での分科会企画等を通じて、資格取得後も皆様と意見交換や情報共有、最新情報の提供等を行っています。

このパンフレットをご覧になっている皆様が「放射線被ばく相談員」を取得して、勤務するご施設等において被ばく相談を担当し、不安を抱える相談者様の心に寄り添い、支援をしてもらえることを期待しています。ぜひ、一緒に活動していきましょう！



入会のご案内

公益社団法人 日本診療放射線技師会の 概要



公益社団法人日本診療放射線技師会は、会員の職業倫理を高揚するとともに、診療放射線学および診療放射線技術の向上と発達、ならびに公衆衛生の向上を図り、もって国民の健康維持に寄与することを目的として昭和22年に設立した、内閣府認定の公益法人です。

診療放射線技師の関わる画像診断部門や放射線治療部門の進歩は目覚ましく、常に最先端の知識や技術が必要とされています。本会では各種認定機構とも連携し、生涯学習セミナー、各種講習会、学術大会など、数多くの学習の機会を設け、診療放射線技師全体の資質向上に取り組んでいます。これらの事業は、国民に対する私たち医療人の責務と考えています。

私たちは、放射線を冠する唯一の医療職種として、医療被ばくの低減を推進するとともに、地位向上と広告のできる専門技術者の実現に力を注ぎ、皆さまで一緒に安心で安全な医療の提供に向けて事業の推進を目指します。

綱 領

1. わたくしたちは、医療を求める人々に奉仕します。
1. わたくしたちは、チーム医療の一員として行動します。
1. わたくしたちは、専門分野の責任をまっとうします。
1. わたくしたちは、人々の利益のために、常に学習します。
1. わたくしたちは、インフォームド・コンセントを尊重し、実践します。

入会のご案内

学術大会

昭和60年のX線発見90周年を機に始まった学術大会は、現在「日本診療放射線技師学術大会」として開催され、診療放射線学の研究や啓発を目的としています。本大会は「患者様への思いやり」を再認識する場であり、本会が承認する4つの承認学会と連携して活動を展開しています。



生涯教育

診療放射線技師は、安全で良質な医療を提供し、国民の健康と生活の質の向上に貢献する役割を担っています。日本診療放射線技師会の生涯教育システムは、主体性を重視しつつ不足分野を補完し、職業の発展と質の向上を目指しています。全ての診療放射線技師に、自己研さんに努め、国民視点で真の医療提供を求めています。

レントゲン週間

W.C.レントゲン博士によるX線発見を記念し、毎年11月2日～8日を「レントゲン週間」と定めています。この記念日は診療放射線技師の職業の起源であり、放射線が医療に不可欠であることを象徴しています。一方、原発事故による放射線への不安が広がる中で、診療放射線技師は正しい知識の普及や職業の理解促進のため、各地域で啓蒙活動を行っています。



放射線取扱主任者定期講習会

選任された放射線取扱主任者は、原子力規制委員会の登録を受けた登録定期講習機関が行う講習を定期的に受ける必要があります。本会は登録定期講習機関です。



認定資格制度の設置

診療放射線技師の技術向上を目的に、特定分野で基準を満たした者に付与される認定資格制度を設けています。これにより、技術と管理業務の向上を図っています。

会員の全員加入賠償責任保険

診療放射線技師が会員登録することで、業務中の医療事故やトラブルに備えた賠償責任保険が自動付与され、経済的負担を軽減し安心して業務に従事できる体制を整えています。

医療放射線安全管理責任者講習会

2019年の医療法改正により、全ての病院・診療所で医療放射線安全管理責任者の配置や指針策定、職員研修、線量管理が義務化されました。本会では、診療放射線技師を対象にした責任者講習会を実施しています。

その他の事業

医療被ばく低減や災害対応のため、ガイドライン発行、施設認定、相談窓口開設、災害訓練への参加などを行っています。

入会手続き

入会に当たって

本会（日本診療放射線技師会）に入会を希望する方は、必ず都道府県の技師会にも入会する必要があります。なお、入会する都道府県技師会は入会者が任意に指定できますので、入会時にご指定ください。

今年度養成施設をご卒業される皆様は、両会へのお申込みをまとめて本会が受け付けます。お申込み受付後の入会手続き業務は、本会と都道府県技師会が協力・分担して行いますので、それぞれの案内に従ってお手続きください。

入会までの流れ

1 入会申請（いずれかの方法で申請してください）

※入会申請が済んだら仮登録完了のメールが届きます。



スマホから



※QRコードにて本サイトアクセス時に、「サーバの識別情報を検証できません」とメッセージが表示された場合は、「続ける」をタップして先にお進みください。接続できない場合は、パソコンからの申込みと同じ方法でアクセスしてください。



パソコンから

本会ウェブサイトのトップページ（<https://www.jart.jp/>）より、お手続きを行ってください。

詳しくは次ページをご参照ください。→

2 入会金・年会費の払込票が郵送されます。

診療放射線技師籍に登録した日から翌年の3月31日までにご入会されますと、日本診療放射線技師会の入会金・初年度年会費が免除されます。

お支払いいただく金額は、下記合計金額です。

- | | | |
|---------------------|---|---------------------|
| ① 日本診療放射線技師会の入会金 | : | 0円（通常入会の場合は5,000円） |
| ② 日本診療放射線技師会の初年度年会費 | : | 0円（通常入会の場合は14,000円） |
| ③ 都道府県技師会の入会金 | : | 都道府県により異なります |
| ④ 都道府県技師会の初年度年会費 | : | 都道府県により異なります |

合計金額：① + ② + ③ + ④

3 入会金・年会費をお振り込みください。

4 お振り込み確認後、都道府県技師会の手続きが完了します。

5 引き続き、日本診療放射線技師会が入会手続きを行い、手続きが完了すると、会員に登録されます。

6 日本診療放射線技師会から入会完了のメールが配信されます。

※入会後はご自身でマイページにログインして登録データのご確認を必ず実施してください。

JART 情報システム (JARTIS) を利用した入会申請

- ① 本会ホームページの「新規入会」をクリックし、「入会・再入会」のページへアクセスします。

本会ホームページURL

<https://www.jart.jp/>



- ② 「入会・再入会」ページをお読みいただき、右上にある「JART情報システム ログイン」をクリックして右下「本会への入会をご希望の方」の<<新入会の方>>の「こちら」をクリック



- ③ 「ログインはこちらから」のページ右側の「本会への入会をご希望の方」の欄のこちらより JARTIS 利用登録のうえ、ログイン後に「入会申請」をお願いいたします。こちらをクリックしてください。

本会への入会をご希望の方

本会への入会を希望する場合は、**こちら**より JARTIS 利用登録のうえ、ログイン後に「入会申請」をお願いいたします。



- ④ 「システム利用登録」のページで必要事項を入力して、チェック欄を入力して「登録する」をクリックしてください。

編集後記

この度、日本診療放射線技師会の入会案内を編集させていただきました。日本診療放射線技師会が現在取り組んでいること、日本診療放射線技師会とはどんなものなのか紹介させていただきました。日本診療放射線技師会には生涯教育事業を達成するために、たくさんの各種委員会、分科会が活動を行っています。その中から今回は、STAT画像所見報告委員会、検査説明委員会、学術教育委員会、放射線被ばく相談員分科会に活動の紹介をお願いしました。入会を考えている方にはぜひ知っていただきたい会員全員加入保険と JART Plus（会員限定無料コンテンツ）を特にしっかりと説明、記載させていただいたつもりです。また、テレビドラマ・映画にもなりました「ラジエーションハウス」の監修をされました、五月女 康作先生とのインタビュー記事も掲載しました。

今回の冊子が、これから診療放射線技師になれる皆様のこれからの業務に役立つ事が出来、加えて日本診療放射線技師会の事を少しでも知っていただくことが出来たら幸いです。皆様のご入会をお待ちしております。

公益社団法人日本診療放射線技師会
業務執行理事
入会促進委員会 委員長 江端 清和

公益社団法人 日本診療放射線技師会 入会のご案内

発	行	2021年12月 7日 第1刷
		2022年 3月25日 第2刷
		2023年 1月25日 第3刷
		2024年 1月24日 第4刷
		2025年 1月31日 第5刷
		2026年 1月 1日 第6刷
編集・発行		公益社団法人日本診療放射線技師会 〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル22階
印	刷	株式会社キタジマ



公益社団法人 **日本診療放射線技師会**
The Japan Association of Radiological Technologists
<https://www.jart.jp>

